

タヌキとシカは往来禁止

備前市の日生港の沖には、鹿久居島、頭島、鴻島、大多府島などの日生諸島がある。

鹿久居島には、30年近く前に、みかん狩りに行ったことがある。そのころは父親も元気で、父親と母親、わたしと家内と二人の子どもで出かけた。日生港から船が出ていて、港の先の急な坂道をずいぶん上がったところにみかん畑があった。帰りの船を待つ間に栈橋で釣りをした。大きなアタリがあったが針に乗らずに長男が泣いて悔しかったことを覚えている。

頭島に行ったのは、学生の時だから40年くらい前になる。みかんの栽培と民宿とカキ養殖の島で、島の面積は鹿久居島よりもずいぶん狭いが人家は多く、港から山の頂までひしめくように家々が並んでいた。

8月の半ばに、「どこか行こう。」と家内と地図を見ていて備前日生大橋に目にとまった。この橋は昨年開通し頭島大橋を渡れば自動車で頭島まで行ける。備前市日生町までは、国道2号からブルーラインに入り備前インターで降りれば我が家から1時間もかからない。備前日生大橋を渡れば鹿久居島だ。あの栈橋に行ってみようと島内を走らせた。栈橋に立つと海が澄んでいて栈橋の下を泳ぐセイゴ、アジやメバルの幼魚が見える。「この島にみかん狩りに来たよな。」と家内に言うと「さあ、覚えていない。」とそっけなく言う。「ここで帰りにつりをして俊明が泣いて悔しかっただろう。」と言っても「そんなことあったっけ。」と言う。覚えていないのかとの思いよりも30年という時間の経過を感じさせる会話だった。当時は人家がもう少しあったし、廃校になった小学校の校舎も残っていた。港近くの休憩所もなくなって夏草が島全体を覆い尽くしている。

島内を南に車を走らせると間近に頭島が見え、瀬戸にカキいかだが浮かんでいる。二つの島を結ぶ頭島大橋は平成16年に開通したが、開通と同時にタヌキやシカが鹿久居島から頭島に夜な夜な橋をわたって出没し、みかんの若芽や実を食べて大変な被害が出ていると報じられていた。橋の手前左の道端にタヌキとシカの看板がある。タヌキとシカのイラストの下に「は 往来禁止」と書かれている。最初は何のことかわからなかったが、どうやら「タヌキとシカは往来禁止」という意味らしい。キョトンとしたタヌキは「えっ、誰のこと？」という様子だし、シカの方はこちらに関心を向けてしっぽを振っているようにも見える。だれが設置したのだろう。まさかタヌキやシカがこの看板の意味を理解すると思って立てはしまい。看板が気に入って橋のたもとの駐車場に車を入れた。後で調べると当時の役場が立てたとのこと。みかん畑は頑丈なフェンスに囲まれていて、大変な食害があると思うのだが、役場の担当者は何ともユーモアとセンスのある看板を立てたものだ。この看板が、橋と頭島、カキいかだ、瀬戸の海とともにほのぼのとした空気を作り上げているようにさえ思った。

頭島には、規模の大きなカキ養殖の施設があり、港も昔よりも整備されたように思う。家々がひしめきあうように建っていることは変わらないが、昔聞いた島のくらしの音は聞こえず、セミの鳴き声だけが響いていた。島全体が住居のように思えた頭島も現在は350名ほどの人口になっているという。鹿久居島に住む人は10名ほどだそう。

橋の開通が観光や産業の活性化につながり、かつてわたしが味わった瀬戸内の情緒と活気が日生諸島にあふれる日がくるといいのになと思った。